

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00954

研究課題名(和文) 古代の宮中宗教行事に関する日中韓比較研究

研究課題名(英文) Comparative Studies on Buddhism seremony of the ancient and medieval royal paleses in Japan, Chaina, and Korea

研究代表者

堀 裕 (Hori, Yutaka)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：50310769

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：日本・朝鮮・中国のなかの王宮を中心とした仏教行事を取り上げ、地域的な特色と相互の影響関係の解明を目的とした。感染症流行の影響を受け、大きな計画変更があったが、オンラインによる研究会とシンポジウムの開催を実施することができた。「日韓古代比較宗教史シンポジウム」と、「宮と都の東アジア比較宗教史シンポジウム 日本・宋・高麗・契丹」では、東アジア諸国の王宮を中心とする各地域での仏教の展開について明らかにすることができ、それぞれの「王権」の正当性に対する価値観と王宮での仏教利用が連動していることが明確になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東アジアにおける王権の正統性を比較研究を実施するための、基礎的な調査を実施することができた。とくに仏教は、インドに由来し、アジア世界に広範に受容されたが、その受容のされ方は、地域と時代の特色を示すものであり、交流の歴史を示すものであると言ってよい。より具体的にいえば、王権の正統性に揺らぎが生じた時ほど、伝統的な権威だけではなく、仏教など周縁的・外来的な要素がそれを補完することが、共通して看取されるのであり、文明における普遍的な特徴であるともいえる。

研究成果の概要(英文)：By taking up Buddhist events centered on the royal palaces of Japan, Korea, and China, the aim was to elucidate regional characteristics and mutual influence relationships. We were able to hold the workshop and symposium. In the "Japan-Korea Comparative Religious History Symposium" and the "East Asian Comparative Religious History Symposium on Palaces and Capitals: Japan, Song, Goryeo, Khitan", the development of Buddhism in various regions centered on the royal palaces of East Asian countries. It became clear that the value of the legitimacy of each "royal authority" and the use of Buddhism in the royal palace are linked.

研究分野：日本古代史

キーワード：仏教 王宮 唐 新羅 百済 高麗 契丹 東アジア

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 宮中儀礼研究

近年の発掘調査の進展によって、7 - 8 世紀の宮都の構造の解明と、儀礼研究の進展が一層進展し、宮都での具体的な儀礼を想定することが可能となった(研究分担者吉田歆『日中宮城の比較研究』吉川弘文館、2002 等)。宮中の神祇祭祀は、大嘗祭や神祇官祭祀などの研究に蓄積があるが、宮中での仏事の研究は、なお検討が十分とはいえない。関連する研究としては、大化改新後天皇が仏教興隆の主体となり、宮中仏事と「外廷」、寺院での仏事を「内廷的」と分担があったことを指摘する研究(若井敏明「七・八世紀における宮廷と寺院」『ヒストリア』第 137 号、1992)や、研究代表者が、7 世紀後半の国家法会の中心は宮中安居であり、藤原宮遷都後に宮中正月金光明会に代わると論じた研究(「智の政治史的考察」『南都仏教』80、2001)さらに 8 世紀に始まる大極殿での宮中正月金光明最勝会の研究(吉川真司「大極殿儀式と時期区分論」『国立歴史民俗博物館研究報告』134、2007)などがある。

### (2) 東アジア史研究

広く東アジアを視野に入れた研究は、各地域の事象の歴史的な意義を測るためにも重要な研究視点である。近年の長安城や、百濟益山、新羅慶州の月城・東宮などの王宮の発掘調査の進展が、倭・日本の宮都との比較を可能にしつつある。とくに出土した木簡の分析が、具体的な歴史像を明らかにしつつあることは重要である(研究分担者三上喜孝「雑令六斎日祭の成立」『続日本紀研究』302、1996 等)。

### (3) 王宮からみた東アジアの「王権」

王宮とは、王の存在する国家に不可欠であり、王の身体と不可分でもある。それゆえ、王宮の宗教行事の分析は、王それ自身の変化と、王の支配する国家構造や社会構造を象徴的に明らかにすることが期待される。また、王宮という場を研究対象として設定することにより、宗教行事の変遷を、長い時間幅で捉えることが容易になるばかりか、東アジア世界での比較史の視座も開くこととなる。これらにより、倭王・天皇が、東アジア史の中でどのような特質をもつのかを明らかにすることが期待できる。

## 2. 研究の目的

東アジアの中での王・天皇・皇帝と国家の歴史的特質を示すため、主に以下の 2 点から検討を行った。

### (1) 宮中仏事の変遷と構造

古代日本における国家統合のための法会である宮中正月金光明最勝会等や、天皇居所で開催される仏事の法会について、会場・参加僧俗・宗教的意義・変遷等を示し、王宮仏事の開始・発展とその構造的な特色を明らかにする。

### (2) 宮中の神祇祭祀

神祇祭祀をとりあげ、宮中仏事と比較することで、王の邸宅に密接する会場で開かれる点に、歴史的な特色があることを明確にする。

### (3) 中国史・朝鮮史との比較研究

これまで十分に検討されてこなかった中国・朝鮮の宮中宗教行事を明らかにし、それを基盤に中国、朝鮮、倭・日本の特色を明らかにする

## 3. 研究の方法

2018 年度 研究代表者が全体を統括し、研究分担者吉田歆氏がおもに日本史と中国史、同じく三上喜孝氏が日本史と朝鮮史を担当することとし、相互に史料調査を進めるとともに、今後の研究会の方針と、研究成果の報告会を実施した。

2019 年度 史料調査の推進と、研究代表者・分担者による研究会のほか、協力をもとめた研究者たちによる 2 度の研究会を実施したほか、韓国(百濟扶余など)への踏査も行った。

2020 年度 中国への踏査と研究会を実施する予定であったが、感染症流行のため中止した。史料整理を進めつつ、研究代表者・分担者による報告会と、「日韓古代比較宗教史シンポジウム」を開催した。

2022 年度 史料収集を踏まえて、「宮と都の東アジア比較宗教史シンポジウム 日本・宋・高麗・契丹」を開催した。

2022 年度 感染症流行のため、補足的な史料収集と、研究報告書を刊行するための準備を行った。

## 4. 研究成果

感染症流行の影響を受け、重大な計画変更があったものの、研究会と、シンポジウムなどにより、日本・朝鮮・中国のなかの王宮を中心とした仏教行事の検討から、東アジア諸国の王宮を中心とする各地域での宗教行事の受容と展開について明らかにすることに成功した。地域の固有

信仰祭祀の分析が、それぞれの特色をより明確に示す一方で、仏教は、インドに由来し、アジア世界に広範に受容されており、その受容のされ方は、地域と時代の特色を示すものであって、交流の歴史を示すものであると言ってよい。これらの分析から、「王権」の正統性に動揺が生じた時ほど、伝統的な権威だけではなく、仏教など周縁的・外来的な要素がそれを補完することが、共通して看取されるのであり、少なくとも東アジア文明における普遍的な特徴であることが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 吉田 歆	4. 巻 49
2. 論文標題 日本古代・中世初期の都市	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告	6. 最初と最後の頁 57 66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 26
2. 論文標題 日本出土の古代木簡 -戸籍と木簡-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 327 334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 16
2. 論文標題 古代日本における人面墨書土器と祭祀	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東西人文	6. 最初と最後の頁 301 315
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 17
2. 論文標題 韓日木簡からみた古代東アジアの医薬文化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東西人文	6. 最初と最後の頁 177 195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 232
2. 論文標題 出土文字資料から見た払田柵の機能	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 0
2. 論文標題 東アジアの木簡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鈴木靖民監修・高久健二・田中史生・浜田久美子編『古代日本対外交流史事典』	6. 最初と最後の頁 105 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 1
2. 論文標題 古代日本の論語木簡の特質 -韓半島出土の論語木簡との比較を通して-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 慶北大学校人文学院HK+事業団研究叢書1 東アジアの論語の伝播と桂陽山城	6. 最初と最後の頁 341-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 2
2. 論文標題 古代日本における人面墨書土器と祭祀	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 慶北大学校人文学院HK+事業団研究叢書02 慶山市所月里木簡の総合的検討	6. 最初と最後の頁 425-438
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 1
2. 論文標題 漢字文化の東アジア的展開と列島世界	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域の古代日本 東アジアと日本	6. 最初と最後の頁 277 - 286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内田敦史	4. 巻 63-1
2. 論文標題 称徳朝における章疏の勸経	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教史学研究	6. 最初と最後の頁 23 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 24
2. 論文標題 日本出土の古代木簡 古代地域社会における農業経営と仏教活動 (韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 347-356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 25
2. 論文標題 古代日本論語木簡の特質 韓半島出土論語木簡の比較を通して (韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文字と木簡	6. 最初と最後の頁 173-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 218
2. 論文標題 慶州・雁鴨池木簡の薬物名木簡再論 - 古代東アジアの医薬文化 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 299 307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 22
2. 論文標題 日本出土の古代文字資料 - 秋田県秋田城跡111次調査出土具注暦記載漆紙文書 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 361 371
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 128 - 7
2. 論文標題 書評・李成市著『闘争の場としての古代史 - 東アジア史のゆくえ - 』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 30 - 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀裕	4. 巻 0
2. 論文標題 天平十五年金光明最勝王経転読会と陸奥国 福島県江平遺跡出土木簡再考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊谷公男編『古代東北の地域像と城柵』高志書院	6. 最初と最後の頁 75 - 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀裕	4. 巻 3
2. 論文標題 天武天皇殯儀礼の構造的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 仁藤敦史編『古代王権の史実と虚構 古代文学と隣接諸学 3』（竹林舎）	6. 最初と最後の頁 286 - 311
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 歆	4. 巻 1
2. 論文標題 古代中国の畿内制	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広瀬和雄ほか編『講座畿内の古代学 第 巻 畿内制』（雄山閣）	6. 最初と最後の頁 248-265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 歆	4. 巻 5
2. 論文標題 日本の都城制 上閤門と閤門を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古瀬奈津子編『古代文学と隣接諸学 5 律令国家の理想と現実』（竹林舎）	6. 最初と最後の頁 289-317
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 20
2. 論文標題 日本出土古代木簡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 415-426
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 0
2. 論文標題 出土文字資料	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藤尾慎一郎・松木武彦編『ここが変わる！日本の考古学 先史・古代史研究の最前線』（吉川弘文館）	6. 最初と最後の頁 154-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 東アジア宗教史と古代日本
3. 学会等名 国史談話会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 古代日本における人面墨書土器と祭祀
3. 学会等名 韓国・国立慶北大学校人文学院HK+事業団第3回国際學術大会「慶山 所月里木簡の総合的検討（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 出土文字資料の集成的研究
3. 学会等名 平泉学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 日本の大極殿と宮中における仏事の展開
3. 学会等名 第2回宮と都の東アジア比較宗教史シンポジウム 日本・宋・高麗・契丹
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 宗教からみた古代日韓の石と文字の文化
3. 学会等名 日韓合同研究会「古代日本と韓国の文字文化と書写材料」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 内田敦史
2. 発表標題 日本古代の孟蘭盆会とその源流
3. 学会等名 日本宗教史懇話会サマーセミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 日本と中国の大極殿・太極殿仏事
3. 学会等名 第5回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 日本古代と東アジアの宗教
3. 学会等名 歴史学研究会古代史部会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 東アジア宮中仏事の比較史 日本と百済・新羅を中心に
3. 学会等名 日韓古代比較宗教史国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田歆
2. 発表標題 中国古代の都城と社
3. 学会等名 第5回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 古代日本における論語木簡の特質 -韓国出土の論語木簡との比較から-
3. 学会等名 韓国桂陽山城博物館、慶北大学校HK+事業団、韓国木簡学会主催国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 観音信仰、百済から日本へ 『観世音応驗記』を出発点として
3. 学会等名 日韓古代比較宗教史国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内田敦士
2. 発表標題 『南海寄帰内法伝』にみる灌仏の意義
3. 学会等名 川内古代史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 内田敦士
2. 発表標題 宮都における盂蘭盆会の日中比較
3. 学会等名 日韓古代比較宗教史国際シンポジウムと若手研究者報告会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 日本史からのコメント
3. 学会等名 2019年国立慶州博物館新羅学国際シンポジウム 金城の南山と平城京の東山 王都周辺の山林寺院に関する日韓比較（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 日本・新羅・百済の王宮と山林修行
3. 学会等名 第4回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田 歆
2. 発表標題 書き換えられた東北の古代・中世 平泉（柳之御所）30年の成果
3. 学会等名 第20回平泉文化フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田 歆
2. 発表標題 古代中国の宮殿内の宗教的空間
3. 学会等名 第4回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 『観世音応驗記』の周辺 - 日本古代における観音信仰の受容をめぐって -
3. 学会等名 仙台古代史談話会・第3回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 出羽国と古代仏教 ～列島周縁に広がる古代仏教を考える～
3. 学会等名 2019年度前期企画展「秋田城と古代仏教」講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 東アジアの宮中法会について初探
3. 学会等名 第1回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 7世紀日本からみた東アジアにおける宮中仏事研究の課題と展望
3. 学会等名 第2回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 興福寺と藤原氏
3. 学会等名 奈良学文化講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 天平十五年金光明最勝王經転読会と陸奥国 福島県江平遺跡出土木簡再考
3. 学会等名 東北史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀裕
2. 発表標題 鎮護国家と東大寺
3. 学会等名 東北歴史博物館講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 韓国・慶州・雁鴨池木簡にみる食物加工と儀礼
3. 学会等名 第1回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田歆
2. 発表標題 中国宮内の宮殿と宗教儀礼
3. 学会等名 第2回東アジアの宮都と宗教行事研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三上喜孝
2. 発表標題 日韓古文書比較研究のための二つの視点 前白木簡と画指
3. 学会等名 歴博国際シンポジウム 東アジアの古文書と日本の古文書 形と機能の比較 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 堀裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 39
3. 書名 王宮からみた仏教の受容と展開 七世紀から九世紀を中心に (佐藤文子・上島享編『日本宗教史4 宗教の受容と交流』)	

1. 著者名 吉田歆	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 16
3. 書名 中国都城から見た前期難波宮 (中尾芳治編『難波宮と古代都城』)	

1. 著者名 吉田歆	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 10
3. 書名 古代中国の宮殿を描いた文学作品 (木本好信編『古代史論聚』)	

1. 著者名 堀裕	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 11
3. 書名 常修多羅衆成立をめぐる基礎的考察 大寺を支える僧侶組織 (菱田哲郎・吉川真司編著『古代寺院史の研究』)	

1. 著者名 吉田 歆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 郵政考古学会・同氏古稀記念論攷刊行会	5. 総ページ数 10
3. 書名 出羽国成立史論『辻尾榮市氏古稀記念歴史・民俗・考古学論攷( )』	

1. 著者名 三上喜孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東アジア古文書の中の画指(小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編/国立歴史民俗博物館 監修『古文書の様式と国際比較』)	5. 総ページ数 16
3. 書名 勉誠出版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三上 喜孝  (Mikami Yoshitaka)  (10331290)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授   (62501)	
研究分担者	吉田 歆  (Yoshia Kan)  (70312618)	山形県立米沢女子短期大学・その他部局等・教授   (41501)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	内田 敦士  (Uchida Atushi)  (70850163)	東北大学・文学研究科・JSPS特別研究員(PD)    (11301)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日韓古代比較宗教史シンポジウム	開催年 2021年～2021年
---------------------------	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------